

9 可積分条件, 他 (2019-12-05)

集合 $A \subset \mathbb{R}^n$ に対して $\mu(A)$, $\mu^*(A)$, $\mu_*(A)$ はそれぞれ A の (ジョルダン) 測度, 外測度, 内測度を表す.

問題 1 区間 $I = [a_1, b_1] \times [a_2, b_2] \subset \mathbb{R}^2$ ($a_i < b_i$) の境界 $\partial I = \{a_1, b_1\} \times [a_2, b_2] \cup [a_1, b_1] \times \{a_2, b_2\}$ を考える.

(a) $\mu^*(\partial I) = 0$ を示せ.

(b) $\mu(\partial I) = 0$ を示せ.

問題 2 \mathbb{R}^2 の集合 $B := \{(x, y) \in \mathbb{Q}^2; 0 \leq x, y < 1\}$ は零集合だが (ジョルダン) 可測でないことを示す. $k = 1, 2, 3, \dots$ に対して $A_k := \{\frac{i-1}{k}; i = 1, 2, \dots, k\}$ とおく.

(a) $\bigcup_{k=1}^{\infty} \bigcup_{\ell=1}^{\infty} A_k \times A_\ell = B$ を示せ.

(b) 任意の整数 $k, \ell \geq 1$ に対して $A_k \times A_\ell$ は零集合であることを示せ.

(c) B は零集合であることを示せ.

(d) B に含まれる基本集合は空集合に限ることを示せ. ただし \mathbb{R}^2 の基本集合とは空集合と (左半開) 区間 $[a_1, b_1] \times [a_2, b_2]$ ($a_i < b_i$) およびそれらの有限和である.

(e) $\mu_*(B) = 0$ を示せ.

(f) B を含む基本集合は区間 $I := [0, 1] \times [0, 1)$ を含むことを示せ.

(g) $\mu^*(B) = 1$ を示せ.

(h) B は可測でないことを示せ.

問題 3 条件 $x^2 + 2y^2 = \frac{57}{32}$ の下で関数 $f(x, y) = 4x + 5y$ が極大・極小になる点を探す.

(a) ラグランジュの未定乗数法に関する下記の定理 L を用いて f が集合 $A = \{(x, y) \in \mathbb{R}^2; x^2 + 2y^2 = \frac{57}{32}\}$ 上極大・極小になる点の候補を求めよ.

(b) 陰関数に関する下記の定理 I を用いて (a) で求めた点で f が A 上極大・極小になるか調べよ.

定理 L 関数 $f(x, y)$ および $g(x, y)$ は開集合 $U \subset \mathbb{R}^2$ 上 C^1 級とする. $f' = (f_x, f_y)$ および $g' = (g_x, g_y)$ とおく. 集合 $A = \{x \in U; g(x) = 0\}$ に関して, f は $g'(a, b) \neq (0, 0)$ を満たす点 $(a, b) \in A$ で A 上極大または極小になるとする. このとき定数 $\lambda \in \mathbb{R}$ が存在して $f'(a, b) = \lambda g'(a, b)$ が成り立つ.

定理 I 関数 $g(x, y)$ は開集合 $U \subset \mathbb{R}^2$ 上 C^1 級とする. g は点 $(a, b) \in U$ に対して $g(a, b) = 0$ かつ $g_y(a, b) \neq 0$ を満たすとする. このとき点 a を含む開区間 I と点 b を含む開区間 J で $I \times J \subset U$ を満たすものと C^1 級関数 $\gamma: I \rightarrow J$ が存在して次が成り立つ:

(i) $b = \gamma(a)$.

(ii) 任意の点 $(x, y) \in I \times J$ に対して $g(x, y) = 0 \Leftrightarrow y = \gamma(x)$.

(iii) 任意の点 $x \in I$ に対して $g_y(x, \gamma(x)) \neq 0$ かつ $\gamma'(x) = -\frac{g_x(x, \gamma(x))}{g_y(x, \gamma(x))}$.

解答例 (第 9 回)

問題 1 (a) 任意の $\varepsilon > 0$ に対して, 区間 $J_1 = [a_1, a_1 + \varepsilon) \times [a_2, b_2 + \varepsilon)$, $J_2 = [b_1, b_1 + \varepsilon) \times [a_2, b_2 + \varepsilon)$, $J_3 = [a_1, b_1 + \varepsilon) \times [a_2, a_2 + \varepsilon)$, $J_4 = [a_1, b_1 + \varepsilon) \times [b_2, b_2 + \varepsilon)$ の和 $J_1 \cup J_2 \cup J_3 \cup J_4$ は ∂A を含む基本集合. 従って $0 \leq \mu^*(\partial I) \leq \mu(J_1 \cup J_2 \cup J_3 \cup J_4) \leq \mu(J_1) + \mu(J_2) + \mu(J_3) + \mu(J_4) = 2\varepsilon(b_2 - a_2 + \varepsilon) + 2\varepsilon(b_1 - a_1 + \varepsilon) = 2\varepsilon(b_1 - a_1 + b_2 - a_2 + 2\varepsilon)$. これより $0 \leq \mu^*(\partial I) \leq 0$ すなわち $\mu^*(\partial I) = 0$ である.

(b) $0 \leq \mu_*(\partial I) \leq \mu^*(\partial I) = 0$ より $\mu_*(\partial I) = \mu^*(\partial I) = 0$.

問題 2 (a) 任意の整数 $k, \ell \geq 1$ に対して $A_k \times A_\ell = \{(\frac{i-1}{k}, \frac{j-1}{\ell}); i = 1, 2, \dots, k, j = 1, 2, \dots, \ell\} \subset B$ より $\bigcup_{k=1}^{\infty} \bigcup_{\ell=1}^{\infty} A_k \times A_\ell \subset B$. 任意の $(x, y) \in B$ に対して $x, y \in \mathbb{Q}$ かつ $0 \leq x, y < 1$ より $x = \frac{i-1}{k}$, $y = \frac{j-1}{\ell}$ かつ $1 \leq i \leq k, 1 \leq j \leq \ell$ を満たす正整数 a, b, i, j が存在する. このとき $x \in A_a, y \in A_b$ なので $(x, y) \in A_a \times A_b \subset \bigcup_{k=1}^{\infty} \bigcup_{\ell=1}^{\infty} A_k \times A_\ell$. ゆえに $B \subset \bigcup_{k=1}^{\infty} \bigcup_{\ell=1}^{\infty} A_k \times A_\ell$.

(b) 点 $\mathbf{x}_{i,j} := (\frac{i-1}{k}, \frac{j-1}{\ell})$ ($i, j = 1, 2, 3, \dots$) を $\mathbf{x}_{1,1}, \mathbf{x}_{1,2}, \mathbf{x}_{2,1}, \mathbf{x}_{1,3}, \mathbf{x}_{2,2}, \mathbf{x}_{3,1}, \mathbf{x}_{1,4}, \dots$ の要領で 1 列に並べて点列 $\{\mathbf{y}_m\}_{m=1,2,3,\dots}$ をつくる. このとき閉区間 $K_m := [\mathbf{y}_m, \mathbf{y}_m] = \{\mathbf{y}_m\}$ を考えると閉区間列 $\{K_m\}_{m=1,2,3,\dots}$ は $A_k \times A_\ell$ を覆う. さらに $\mu(K_m) = 0$ より任意の $\varepsilon > 0$ に対して $\sum_{m=1}^{\infty} \mu(K_m) = 0 \leq \varepsilon$. ゆえに $A_k \times A_\ell$ は零集合である.

(c) 集合 $X_{k,\ell} := A_k \times A_\ell$ ($k, \ell = 1, 2, 3, \dots$) を $X_{1,1}, X_{1,2}, X_{2,1}, X_{1,3}, X_{2,2}, X_{3,1}, X_{1,4}, \dots$ の要領で 1 列に並べて集合列 $\{Y_m\}_{m=1,2,3,\dots}$ をつくる. このとき (a) より $B = \bigcup_{m=1}^{\infty} Y_m$. また (b) より各 Y_m は零集合. 零集合列の和は零集合なのでこれより B は零集合である.

(d) B は空でない基本集合を含むとする. このとき区間 $J = [a_1, b_1) \times [a_2, b_2)$ ($a_i < b_i$) が存在して $J \subset B$. 今 $a_1 < b_1$ より無理数 $x \in [a_1, b_1)$ が存在する. このとき $(x, a_2) \in J \subset B$ となり B の定義に矛盾.

(e) (d) より B に含まれる基本集合は空集合に限る. 従って $\mu_*(B) = \mu(\emptyset) = 0$.

(f) 任意の有限個の区間 J_1, \dots, J_m に対して和 $\bigcup_{i=1}^m J_i$ は B を含むとする. 基本集合から区間を引いたものは基本集合なので $K := I \setminus \bigcup_{i=1}^m J_i$ は基本集合である. $K \neq \emptyset$ とすると区間 $L = [a_1, b_1) \times [a_2, b_2) \subset K$ ($a_i < b_i$) が存在する. 今 $a_1 < b_1$ および $a_2 < b_2$ より有理数 $x \in [a_1, b_1)$, $y \in [a_2, b_2)$ が存在する. すると $L \subset K \subset I$ より $0 \leq a_i < b_i < 1$ なので $(x, y) \in B$. しかし $B \subset \bigcup_{i=1}^m J_i$ と K の定義より $(x, y) \in L \subset K \subset (\bigcup_{i=1}^m J_i)^c \subset B^c$ となり矛盾.

(g) 区間 I は B を含むので $\mu^*(B) \leq \mu(I) = 1$. 一方, 任意の B を含む基本集合 J に対して (f) より $J \supset I$ なので $\mu(J) \geq \mu(I) = 1$. $\mu^*(B)$ はそのような $\mu(J)$ の下限なので $\mu^*(B) \geq 1$. 以上より $\mu^*(B) = 1$ である.

(h) (e) と (g) より B の内測度と外測度は一致しないので B は可測でない.

問題 3 (a) $g(x, y) = x^2 + 2y^2 - \frac{57}{32}$ とおく. このとき $A = \{(x, y) \in \mathbb{R}^2; g(x, y) = 0\}$. また f, g は開集合 \mathbb{R}^2 上 C^1 級で $f' = (f_x, f_y) = (4, 5)$, $g' = (g_x, g_y) = (2x, 4y)$. 特に g' は原点以外で $(0, 0)$ にならないので原点を含まない A 上 $(0, 0)$ にならない. 従って f が点 $(a, b) \in A$ で A 上極大または極小になるとすると, 定理 L より $\lambda \in \mathbb{R}$ が存在して $f'(a, b) = \lambda g'(a, b)$. このとき

$$a^2 + 2b^2 = \frac{57}{32}, \quad 4 = 2a\lambda, \quad 5 = 4b\lambda$$

であり, この方程式を満たすのは $a = \pm 1, b = \pm \frac{5}{8}, \lambda = \pm 2$ のみ. (複号同順.) 従って f は 2 点

$(a_+, b_+) = (1, \frac{5}{8})$ および $(a_-, b_-) = (-1, -\frac{5}{8})$ 以外では A 上極大にも極小にもならない.

(b) g は開集合 \mathbb{R}^2 上 C^1 級で $g(a_+, b_+) = 0$ かつ $g_y(a_+, b_+) = 4b_+ = \frac{5}{2} \neq 0$. 従って定理 I より点 a_+ を含む開区間 I と点 b_+ を含む開区間 J および C^1 級関数 $\gamma : I \rightarrow J$ が存在して次が成り立つ: (i) $b_+ = \gamma(a_+)$. (ii) 任意の $x \in I$ および $y \in J$ に対して $g(x, y) = 0 \Leftrightarrow y = \gamma(x)$. (iii) 任意の $x \in I$ に対して $g_y(x, \gamma(x)) = 4\gamma(x) \neq 0$ かつ $\gamma'(x) = -\frac{g_x(x, \gamma(x))}{g_y(x, \gamma(x))} = -\frac{x}{2\gamma(x)}$. I 上の C^1 級関数 $\varphi(x) = f(x, \gamma(x))$ に関して (iii) より $\varphi' = f_x + f_y\gamma' = 4 - \frac{5x}{2\gamma}$. さらに (iii) より φ' は I 上 C^1 級であり $\varphi'' = -\frac{5}{2\gamma} + \frac{5x\gamma'}{2\gamma^2} = -\frac{5}{2\gamma} - \frac{5x^2}{4\gamma^3}$. 今 $f'(a_+, b_+) = \lambda g'(a_+, b_+)$ を満たす λ が存在するので点 a_+ は φ の停留点. さらに (i) より $\varphi''(a_+) = -\frac{5}{2b_+} - \frac{5a_+^2}{4b_+^3} = -\frac{228}{25} < 0$. 以上より φ は停留点 a_+ で真に極大になる. 従って (ii) より f は点 (a_+, b_+) で A 上真に極大になる.

$g(a_-, b_-) = 0$ かつ $g_y(a_-, b_-) = 4b_- = -\frac{5}{2} \neq 0$ より点 (a_-, b_-) に対しても定理 I による同様の議論は可能. ただし $\varphi''(a_-) = -\frac{5}{2b_-} - \frac{5a_-^2}{4b_-^3} = -\frac{228}{25} > 0$ より φ は停留点 a_- で真に極小になるので f は点 (a_-, b_-) で A 上真に極小になる.